

パウダーレスインキ「キレイナ」の実力 (広告)

1. ボタ落ちクレームがなくなった [スリーライト]

東京・日本橋にデザイン制作セクション（本社）と東京・江東区に印刷セクション「ワークスタジオ t2」を持つ制作印刷会社の（株）スリーライト（佐々木勝社長、社員 86 人）は、グラフィックデザイン、印刷、Web 制作、PR イベントの企画・運営など多種多様なクライアントの広告制作や、プロモーションに関わるさまざまな広告の印刷を中心に事業展開している。2009 年に、印刷工場を今の江東区に移設。JR 亀戸駅と都営新宿線西大島駅の間という本社との交通の利便性の良い場所で、オフセット印刷工程の世界標準である PSO (Process Standard Offset) 認証を取得し、質の高い印刷物を生産している。

乾燥促進の効果

スリーライトの印刷の多くは、ポスターやカタログなどの商業印刷物。ハイデルベルグ製の菊全判水性コーター付き 4 色機と菊半裁判 5 色機が稼働する。CTP もハイデルベルグ製で、刷版は富士フィルム製。現在、無処理版へ切り替えることにしており、本誌が出るころはすべて無処理版を

使っているかもしれない。環境対応への取り組みは積極的で、無処理版への切り替え、後述するパウダーレスインキの採用などを推進している。

スリーライトの技術陣は、2014 年初め、T&K TOKA が開発・発表した油性枚葉印刷用パウダーレスインキ「キレイナ (BEST ONE KIREINA)」の存在を知り、挑戦してみようとすぐにテストにとりかかった。これまでパウダーのボタ落ちをはじめ、スプレーパウダーによる事故が何件もあったが、それをなくすことができると考えた。乾燥促進の意味では、同社の印刷機は片面機であり、また UV 機でもないのですぐに反転して裏面の印刷に取り掛かれることも魅力に感じた。

そして 2014 年 4 月にこのパウダーレスインキ「キレイナ」を導入した。導入後は、良いことづくめである。8 月には、T&K TOKA とともに内覧会を開いたほどだ。

パウダーを劇的に減らせた。今ではゼロも夢ではないようだ。「重い絵柄は別として、1 年の経験から、紙や絵柄によってはゼロを実践し、今後とも積極的にゼロにしてもいいかもしれません。パ



PSO 認定証の前で、プロダクションマネジメント本部 t2 事業部プレスグループ関根利彦マネージャー



品質にこだわる、プロダクションマネジメント本部 t2 事業部プレスグループ星野和義チーフ



デリバリのパウダーによる白さも減ってきた印刷機

ウダーをまったく吹かなくても良い紙銘柄や、棒積みも可能なことが見えてきました」と関根利彦プレスグループマネージャーは語る。現在はすべての印刷でこのパウダーレスインキを使い、絵柄によりパウダー散布の有無や量で調整している。

「キレイナ」の導入後は、ボタ落ちのクレームはなくなった。コート紙に 4 色の両面印刷であれば、片面印刷後、これまでは 1 時間以上は寝かせたが、今では 30 分で反転しすぐに印刷に入れるため、即納や短納期化が可能となり、クライアントからの満足度が向上した。

「キレイナの導入により、パウダーのためのブランケットや機械の掃除も圧倒的に減りました。減った時間は、別のことに使えるので、仕事がスムーズに進むようになったと感じます」と現場の

機長である星野和義氏は話す。乾きや不良を心配する時間を、色をはじめとした印刷品質や標準化などの意識や検討に使えると言うのだ。

運用当初は、平網のグラデーションのような絵柄は、ムラになった場合もあったようだが、T&K TOKA 側も日夜改良しており、今ではこのような問題はないと言う。

デメリットよりメリットが大

「キレイナ」がパウダーレスとなる簡単な原理は、特殊なビーズ、樹脂、ワックスをインキに配合したことである。ビーズが用紙と用紙を支えるクッションに、樹脂が表面のべた付き感をなくし、ワックスが擦れを防ぐ。

しかし、デメリットもある。それはコストだ。従来の油性オフセットインキの 1.3 倍ほどの価格と言う。しかし、パウダーが劇的に減ったことで前述のようにボタ落ちのクレームはなくなり、ブランケットや機械の掃除は減り、清掃に使う洗剤や薬品も減り、当然これらの廃液も減り、空いた時間を有益なことに使えるというメリットは、十分もとが取れる状況と言う。

絵柄や紙にもよるが、本誌が出るころにはパウダーゼロで行う仕事が大半になっているかもしれない。このインキの実力は、これから全国の印刷会社に広がっていきそうだ。(つづく)

革新的なパウダーレスインキ「ベストワン KIRÉINA」誕生。

キレイナ印刷
キレイナ加工
キレイナ機械
キレイナ工場

BEST ONE
KIRÉINA

T&K TOKA

株式会社 T&K TOKA <http://www.tk-toka.co.jp>
本社 TEL 03-3960-5101(代表) 東京都板橋区泉町20-4 〒174-0055
埼玉事業所 TEL 049-258-1611(代表) 埼玉県入間郡三芳町竹間沢283-1 〒354-8577